

[第1回 これだけは知っておこう 留学／フィールドワークのリスクマネジメント]  
シンポジウム「これだけは知っておこう 留学／  
フィールドワークのリスクマネジメント」開催にあたって

## The Risk Management in Study Abroad/Fieldwork

椎野 若菜  
SHIINO Wakana

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所  
Tokyo University of Foreign Studies, Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa (ILCAA)

### キーワード

フィールドワーク 留学 安全対策 性被害 セクシュアリティ 女性の身体と健康

### Keywords

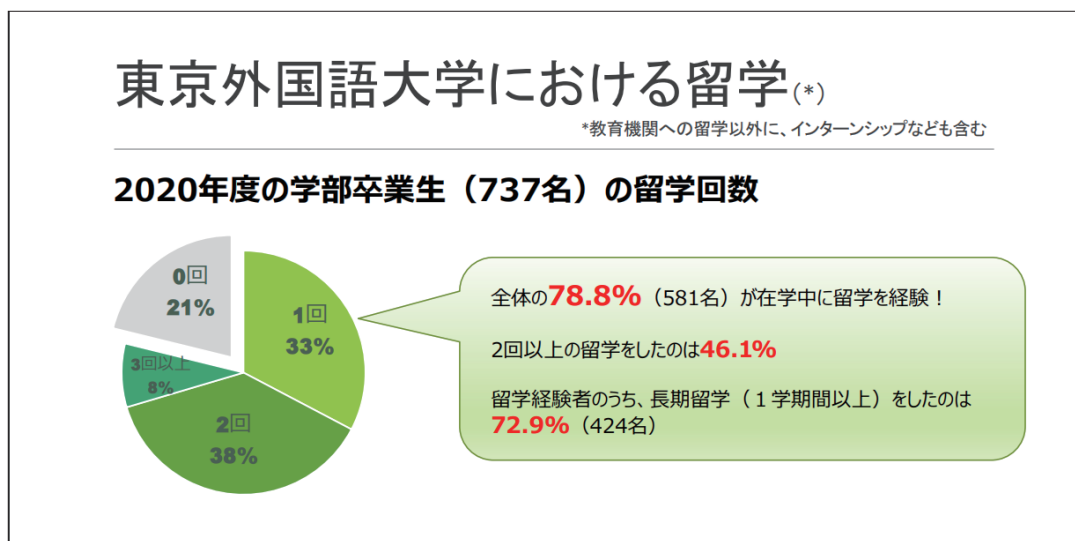
Fieldwork; Study abroad; Safety measure; Sexual violence; Sexuality; Female body and mind

*Quadrante*, No.24 (2022), pp.89–91.

2021年10月20日(水)、5限後(17:40～19:40)にzoom ウェビナーにて、「つなぐ／つながる TUFs ジェンダー・フェミニズム研究連続シンポジウム」の第一回として、これから留学やフィールドワークに行く学生、またそうした学生を送り出す教員むけに「これだけは知っておこう 留学／フィールドワークのリスクマネジメント」と題したシンポジウムを開催した。

近年(コロナ禍が始まった2020年以降をのぞき)、日本の大学に属する学生が海外へ

赴く機会が大変多くなった。東京外国語大学では2人に1人以上は長期留学へ行っており、2020年度の学部卒業生737名のうち、78.8%(581名)が在学中に留学を体験している。一年次に半分の人が短期留学をし、三年次に長期留学をする人が多い。さらに、あまたと存在するようになった国際NGOが募集するフィールドでのインターンに参加する学生も多数いる。本シンポジウムでは、海外留学やフィールドワークに出る際のリスクマネジメントのな



小松発表スライド1

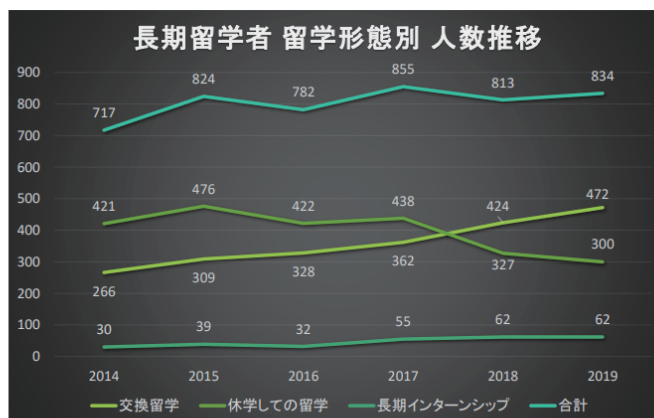
## 長期\*留学者の内訳(推移)

\*長期留学:1学期間以上の留学等

| 年度   | 交換留学 | 休学しての留学 | 長期インターンシップ | 合計  |
|------|------|---------|------------|-----|
| 2014 | 266  | 421     | 30         | 717 |
| 2015 | 309  | 476     | 39         | 824 |
| 2016 | 328  | 422     | 32         | 782 |
| 2017 | 362  | 438     | 55         | 855 |
| 2018 | 424  | 327     | 62         | 813 |
| 2019 | 472  | 300     | 62         | 834 |

人数は当該年度内に、留学を経験した学生の人数  
(前年度出発なども含まれる)

近年、インターンシップ、ボランティアなど実践的な活動に対する関心が高まっている。



### 小松発表スライド 2

かでも、とりわけセクシュアリティに重点をおいて視聴者のみなさんと情報を共有し、考えていただく機会にしたいと企画した。

今回、東京外国語大学の国際社会学部、国際日本学部、言語文化学部、留学支援共同利用センター、男女共同参画推進部会という学内の各部局、そして外部の4団体との共催という形をとったのは、まずは学内の横のつながりを強化し、留学やフィールドワークなどで出ていく学生の問題について意識を高めたい、共有したい思いがあったからだ。また、昨今の傾向として、何か問題が生じると大学機関をはじめ学会など、どの組織も自衛に走りがちで閉鎖的になってしまう。そこへ、NPO 団体なども協働することで、異なる風がはいる、この問題に取り組めるかという期待をこめた。そしてなにより、海外に出る際のリスクマネジメントのなかに、性被害に関する項目が正面から学べる機会が非常に少ないため、本テーマを学外に開いたかったというのが現状である。これは日本のセクシュアリティ・ジェンダー教育に深くかかわるテーマでもあることはいままでもない。現代日本では、男女それぞれの身体について、ジェンダー・セクシュアリティについて、幼少期から大

学に入るまで知識としてではなく、実社会すなわち日常生活につながる形で学ぶ場が設けられていない。海外に出る以前に、自らの、また他者の性と向き合うかについて考える機会がなく、またそれが故の個々人の悩みについて相談する術ももたない若者が多い。

そこで、本シンポジウムは産科婦人科医、日本臨床心理士として、「よしの女性診療所」を2003年に東京・中野に開院し、患者さんと向きあい、問題点を把握していらっしゃる吉野一枝先生のご講演を柱とすることにした。詳細はつづく講演内容をごらんいただきたい。

共催した3つの団体について紹介しておきたい。FENICS、HiF、SAYNO! は、身体的・構造的に弱い立場に置かれやすい学部留学生、(若手・女性) フィールドワーカーが直面する危険や問題について取り組み始めた団体である。FENICS(Fieldworker's Experimental Network for Interdisciplinary Communication) はフィールド研究者が分野や産学が超えた交流を通じ、フィールドワークという活動をより豊かに行なうために2012年にNPO 法人化した活動団体で、古今書院より100万人のフィールド

ワーカーシリーズ(全15巻)を発売している。HiFは「フィールドワークとハラスメント」という共同研究チームで、FENICSと協働し、2020年9月より活動を始めた。サロンを開催し、性被害の体験記を現在収集している。

SAYNO!は、留学先において性被害にあった学部生たちが2020年から開始した活動団体である。私自身がFENICSやHiFの活動を本格的に始めたのは、私の知り合いである、いずれも大変まじめな、行動力のある学生さんらが続けて留学先で性被害、ハラスメントにあったからである。私自身もかつての自分自身の経験がよみがえり、行動力のある彼女たちと協力して活動することにした。その第一歩が、性被害マニュアル作りのサポートであった。

日本学術振興会ナイロビ研究連絡センターは、東アフリカにおける調査研究センターとして、現地の研究者と日本の研究者をつなぐ重要な役割を担っている。学振オフィスが設置されている国は少ないが、日本からの初学者、勉強している学生が訪れる組織である場合は、ぜひとも海外におけるセンターとしての役割を、本シンポジウムの報告からもお考えいただくきっかけとしていただきたいと願っている。

当日のプログラムは下記のように構成された。

つなぐ／つながる TUFSS ジェンダー・フェミニズム研究連続シンポジウム第一回  
「これだけは知っておこう 留学／フィールドワークのリスクマネージメント」

■日時 2021年10月20日(水)、5限後  
(17:40～19:40) zoom ウェビナー

■司会・趣旨 椎野若菜(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所／FENICS)

■挨拶 金富子(東京外国語大学)

◇第一部 留学／フィールドワーク時におこった／おこりうること

- 1) 留学時におこった性暴力の事例(SAYNO!)
- 2) 留学／フィールドワーク推奨、そして安全対策の問題点

(椎野若菜＋小松謙一郎(東京外国語大学留学支援共同利用センター))

◇第二部 心身のことを知ろう、守ろう、そなえよう

吉野一枝先生(よしの診療所)

「カラダとココロ——性の自己決定権とケア」

■質問、ディスカッション

■閉会の辞 小田原琳(東京外国語大学)